

旅行消費額（百万円）

	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)
目標	23350	39500	48300	68855	72195	75534
実績	42270	47990	65770			

●旅行消費額

伊勢市観光客実態調査をもとに分析。2024 年全国平均宿泊旅行単価は観光白書によると約 70,000 円/人、日帰り旅行単価は約 19,200 円/人であったことに比べると、伊勢市の観光消費額は依然半分以下となっており、単価の上昇が課題である。なお、伊勢市観光協会で令和3年度リピーターを対象に行ったアンケート調査では、旅行単価が1～3万が多く、仮に1万円～3万円を2人の予算とすると5千円～1万5千円程度の消費の人が多いということになる。この調査は宿泊者率が多かったため、お土産を買わなかったコロナ禍での伊勢の実質宿泊費は1万5千円と仮定できる。伊勢市の観光客実態調査の令和6年の宿泊旅行単価からその額を引くと、宿泊費以外は11,000 円程度であり、令和6年の日帰り旅行単価 8,371 円とさほど変わらない。宿泊増のため稼働率の平準化に取り組むとともに、高付加価値の旅行商品等の消費行動の喚起が課題である。

延べ宿泊者数（千人）

	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)
目標	500	550	600	700	720	740
実績	722	838	866			

●延べ宿泊者数

伊勢市観光統計をもとに分析。令和6年度は宿泊施設数 69、収容人数は 5,802 人となっている。施設数は増加しているが、これは、鳥羽 120 施設、・志摩 146 施設より少ないため、キャパシティの増加が課題である。また、鳥羽・志摩は観光客数の約 35～39%が宿泊者数であるが、伊勢は 14%程度である。観光客に伊勢市内に宿泊してもらう取り組みが課題である。また、伊勢市内には富裕層の好むランクのホテルがほとんどないため、ホテルランクのバラエティー強化も課題であり、誘致等について市とともに取り組む必要がある。今後は宿泊キャパシティを最大限活用できるように、遷宮に向けて方策を検討していく。

来訪者満足度（％）

	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)
目標	91.5	91.5	91.5	91.5	92	92.5
実績	91.5	92.4	87.4			

●来訪者満足度

伊勢市観光客実態調査をもとに分析。なお、コロナ禍では必然的にリピーター率が上がるため、満足度はそれに連動して高く出ていた可能性がある。しかし、年度に関わらず、どの年も移動・交通の満足度が一番目に低く、情報・案内の満足度が2番目に低いことから、この部分が課題となっている。移動・交通の課題解決は難易度も高く時間も必要であることから、移動交通のコツの情報発信に力を入れ、満足度を向上させる施策を検討・実施していく。

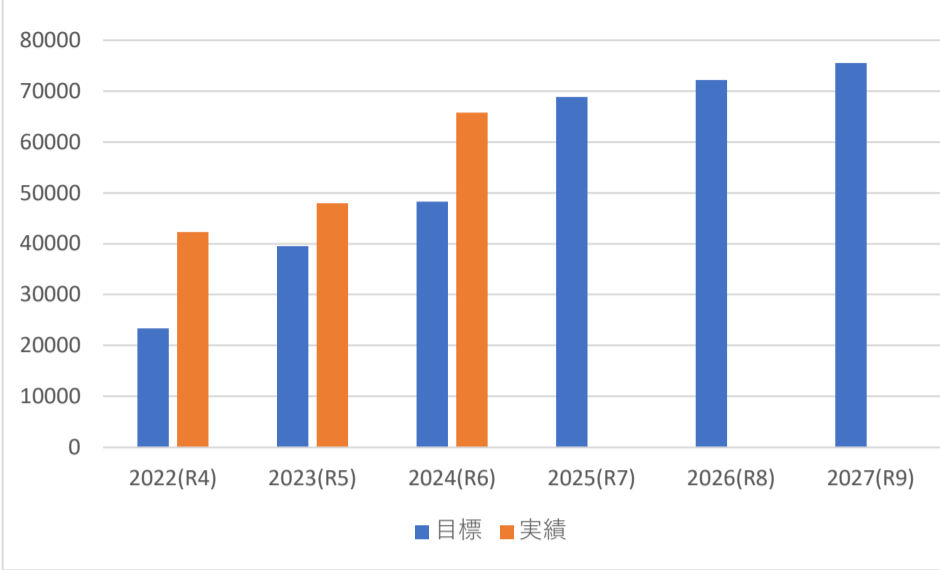
リピーター率（％）

	2022(R4)	2023(R5)	2024(R6)	2025(R7)	2026(R8)	2027(R9)
目標	81	82	83	77	78	79
実績	80.5	80	76.8			

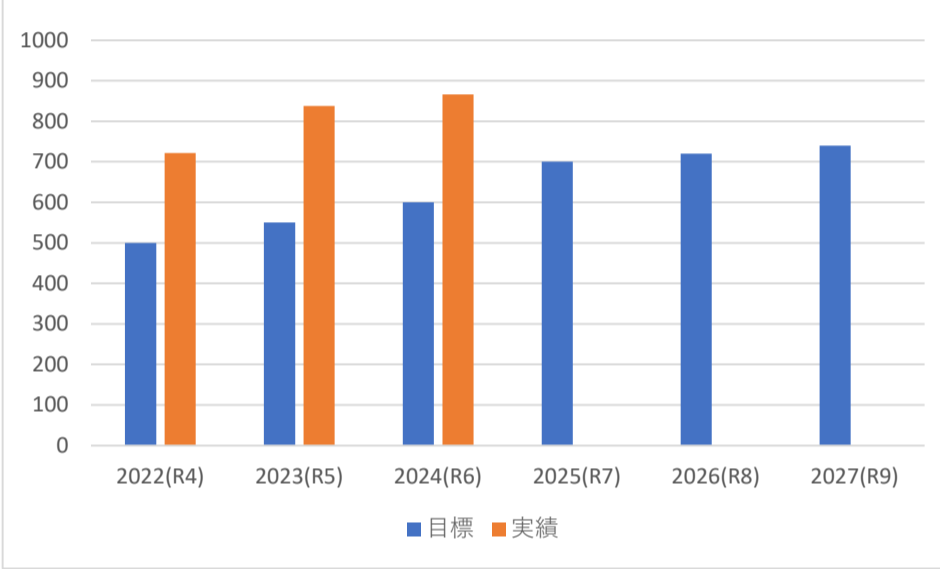
●リピーター率

伊勢市観光客実態調査をもとに分析、伊勢志摩観光コンベンション機構の調査も参考にしている。平成25 年の遷宮時に、インターネット等の媒体により、伊勢の魅力を効果的に発信することができたため、しっかりと伊勢が参拝と観光の地として再認知され、それが継続してリピーター化している可能性が伺える。このことは、コンベンションの調査と比較すると、伊勢は伊勢志摩他エリアより4 回以上の訪問者数が多いこと、また、リピーターのうち1 年以内の再訪者の割合が令和6 年度 38.1%と高いことにも表れている。今後は、さらにリピーター増加を目指し、リピーターの特定ができる状態を構築し、定期的な訪問を促すことが出来る取り組みを検討・実施していく。

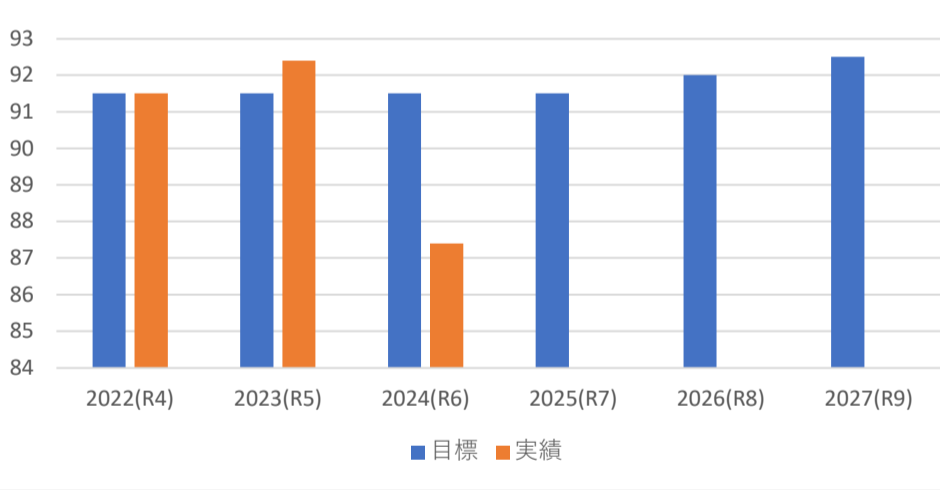
旅行消費額



延べ宿泊者数



来訪者満足度



グラフ タイトル

